

講義要項

科目	情報処理技術論	担当講師	土屋 晃一
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・30時間
概要	情報処理の技術を学び、収集した多量の情報を目的に応じた形に加工するための方法を学ぶ。コンピューターを駆使した文章作成方法を学ぶ。		
目標	リハビリテーション過程や研究などで得られた情報を有効に活用できるように、以下の目標を掲げる。 1. 情報の種類に応じた分類、整理ができる。 2. 情報の特徴に合わせた演算方法が選択できる。 3. コンピューターを使用して情報の整理ができる。 4. 整理した情報を元に、コンピューターを使用して文書の作成ができる。		
教科書	適宜資料を配布する		
参考書	1. 「できる」シリーズ インプレス		
学習評価	3ソフトの成果物および積極性加算の合計を100%とし、60%以上で合格とする。 3ソフトの成果物に対する評価の割合は以下の通りとする。 「マイクロソフトワード」30%、「マイクロソフトエクセル」30%、「マイクロソフトパワーポイント」30%、積極性加算10% 合計100%(100点) ただし、平常の学習態度、出席状況、レポート、発表等を考慮し総合的に判定する。		
備考	積極性加算は、授業に能動的に参加する(手を挙げて回答をする。困っているクラスメートを助ける。率先して課題を提出する。リーダーシップを発揮する。)ことにより、加算します。		

講義内容:

回数	内容	学習法
1	情報とは	講義・演習
2	情報の種類と処理法	講義・演習
3	処理法各論①	講義・演習
4	処理法各論②	講義・演習
5	情報処理1 エクセルを用いた情報処理①(データ集計)	講義・演習
6	情報処理1 エクセルを用いた情報処理②(統計処理)	講義・演習
7	情報処理1 エクセルを用いた情報処理③(表の作成・グラフ化)	講義・演習
8	情報処理1 エクセルを用いた情報処理④(表の作成・グラフ化)	講義・演習
9	情報処理2 ワードを用いた処理①(文書作成)	講義・演習
10	情報処理2 ワードを用いた処理②(文書作成)	講義・演習
11	情報処理2 ワードを用いた処理③(レポート作成・表図の挿入)	講義・演習
12	情報処理2 ワードを用いた処理④(レジュメ作成・段組みなど)	講義・演習
13	情報処理3 パワーポイントを用いたプレゼンテーション①	講義・演習
14	情報処理3 パワーポイントを用いたプレゼンテーション②	講義・演習
15	情報処理3 パワーポイントを用いたプレゼンテーション③	講義・演習

講義要項

科目	外国語	担当講師	Everett Ofori・高島 恵・渡邊 泰典
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・30時間
概要	医療現場で働く者として、また生涯にわたり医療を学び続ける者にとって、英語の理解、活用が必要である。この科目では、平易な日常英会話を学ぶと共に、国際社会の中で積極的に英語でのコミュニケーションを実施していく姿勢を学ぶ。また、療法士として必要となる、医療に関わる英語(英単語)を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平易な日常英会話のレベルにおいて、英語でのコミュニケーションが実施できる。 2. 療法士として必要となる、医療に関わる英語(英単語)を理解する。 3. 療法士に必要な医療・リハビリテーションに関わる英文の読み取り方が理解できる。 		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療職が覚えておきたい運動・動作の英語表現 医学書院 2. 医療事務スタッフをめざす人のための医療英語 南雲堂 3. リハビリテーション英語テキスト 南江堂 		
参考書	各自辞書を準備して授業に臨むこと。		
学習評価	Reading50%とSpeaking50%で100%とし、そのうち60%以上で合格とする。ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考	<p>講義内容</p> <p>1～7 Reading(読解):専任教員</p> <p>8～15 Speaking(話す):外部講師</p>		

講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション Lesson1 Reading 1	講義
2	Lesson2 Reading 2	講義
3	Lesson3 Reading 3	講義
4	Lesson4 Reading 4	講義
5	Lesson5 Reading 5	講義
6	Lesson6 Reading 6	講義
7	Lesson7 Reading 7	講義
8	Lesson8 Basic Words and Phrases	講義
9	Lesson9 Body Parts and Organs	講義
10	Lesson10 Symptoms and Diseases	講義
11	Lesson11 Medical Terminology	講義
12	Lesson12 Finding Your way Around	講義
13	Lesson13 Representation of the basic operation	講義
14	Lesson14 Representation of the activities of daily life	講義
15	Lesson15 Representation of the movement	講義

講義要項

科目	自然科学概論	担当講師	滝 章介
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・30時間
概要	人間は自然の一部であり、リハビリテーションは人間を扱う職業となるので、自然科学の基礎的知識を身につけることは極めて重要である。さらに自然の事物・現象について理解を深めるとともに、自然の仕組みを解き明かす方法も学ぶ。		
目標	自然科学の本質、科学を成り立たせている原理や規則性を理解し、専門科目への土台を築いていく。		
教科書	サイエンスビュー生物総合資料 実教出版		
参考書	適宜資料を配布		
学習評価	筆記試験を100%とし、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に判定する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション生物学:細胞の基本構成・細胞膜の平衡を保つメカニズム	講義
2	生物学:細胞膜を介した物質の輸送	講義
3	生物学:細胞分裂(減数分裂含め)・タンパク合成	講義
4	生物学:遺伝の法則	講義
5	生物学:胚葉の分化と器官形成	講義
6	生物学:神経の種類・筋収縮のメカニズム	講義
7	生化学:化学組成・イオン	講義
8	生化学:化学組成・電解質	講義
9	生化学:pHの調整(酸・塩基)	講義
10	運動学:力学の基礎(ベクトル・モーメント・トルク)	講義
11	運動学:重心・支持基底面・安定性の要素	講義
12	運動学:仕事とエネルギー	講義
13	運動学:テコの原理	講義
14	運動学:身体における3つのテコ	講義
15	まとめ	講義

講義要項

科目	公衆衛生学	担当講師	野寺 誠
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・30時間
概要	WHOでは、公衆衛生学を次のように定義している。 「組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、生命を延長し、身体的・精神的機能の増進をはかる科学であり技術である。」 人間社会を取り巻く社会環境の諸要因を理解し、保健・医療・福祉領域における情報指標の捉え方および情報収集能力を習得する。		
目標	公衆衛生学とは何か説明できる。 1. 健康、健康増進とは何か説明できる 2. 感染症、疾病予防、生活習慣予防について説明できる 3. 公衆衛生に対しての国の役割を説明できる 4. 公衆衛生に対しての市町村の役割を説明できる 5. 公衆衛生に対して、理学療法士、作業療法士が何が出来るか説明できる		
教科書	国民衛生の動向 厚生労働統計協会		
参考書	適宜資料を配布する。		
学習評価	筆記試験を100%とし、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に判定する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	公衆衛生学とは	講義
2	健康の指標	講義
3	感染症	講義
4	感染症とその予防	講義
5	食品保健と栄養	講義
6	生活環境論の安定	講義
7	地域保健活動	講義
8	母子保健	講義
9	学校保健	講義
10	生活習慣病	講義
11	精神保健福祉	講義
12	産業保健	講義
13	医療制度	講義
14	健康教育	講義
15	まとめ	講義

講義要項

科目	基礎解剖生理学	担当講師	加藤 研太郎
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	解剖学・生理学を円滑に学習が進められるよう、人体の構造と機能および生命維持の基礎的なメカニズムを学び、人体の恒常性が各組織・器官の連携によってなされていることを理解する。		
目標	1. 人体の構造について名称・位置が説明できる 2. 人体において重要な役割を持つ部分について、その機能が説明できる 3. ある行動について、働いている部位・名称と機能を総合的に考察できる		
教科書	サイエンスビュー 生物総合資料 実教出版 日本人体解剖学 上下巻 南山堂 生理学テキスト 文光堂 基礎運動学 医歯薬出版株式会社	病気がみえる Vol.2 循環器 第4版 病気がみえる Vol.4 呼吸器 第2版 病気がみえる Vol.7 脳と神経 病気がみえる Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第4版	
参考書	病気がみえる Vol.8 腎・泌尿器 病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科		
学習評価	筆記試験を100%として、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等も考慮し総合的に評価する。		
備考	1) 講義前に所定の視聴覚教材を用いての事前学習を前提とする。 2) 講義ごとの予習・復習を必須とし、既定の予習・事前課題を行ってこないものは講義に参加する権利はない。 3) グループワークを主体とするため、ワーク内で発言をしないものは講義に参加する権利はない。		

講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション・人体の基本構成 系統別の機能	講義
2	神経系(構造と区分)	講義
3	感覚器系(感覚の種類・伝導路)	講義
4	神経系・運動器系①(錐体路・錐体外路・小脳による運動制御)	講義
5	神経系・運動器系②(反射の仕組み)	講義
6	呼吸器系①(呼吸器の構造)	講義
7	呼吸器系②(ガス交換)	講義
8	循環器系①(循環器の構造)	講義
9	循環器系②(循環調節)	講義
10	消化器系①(構造と消化の仕組み)	講義
11	消化器系②(代謝)	講義
12	内分泌系(構造とホルモンの役割)	講義
13	泌尿器系(構造と排尿のメカニズム)	講義
14	呼吸器系・循環器系・泌尿器系(酸塩基平衡)	講義
15	まとめ	講義

講義要項

科目	解剖学	担当講師	穂田 真澄
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・60時間
概要	<p>疾病・障害を診るためには、人体の正常な構造を理解する必要がある。解剖学では、特に循環器・神経系の構造について学ぶ。さらに、呼吸器・消化器・泌尿生殖器・内分泌に属す器官の構造を学び、これらの器官が人間の動きの中でどのような役割を果たしているかを併せて学習する。</p>		
目標	<p>循環器・神経系の構造を各論的に学ぶと共に、内臓に属している各器官の構造と機能的役割を把握し、人体機能に関する知識を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器系に属している器官の名称をあげ、構造を説明できる。 2. 神経系に属している器官の名称をあげ、構造を説明できる。 3. 内臓に属している各器官の名称をあげ、構造を説明できる。 4. 内臓に属している各器官の機能的役割を説明できる。 		
教科書	日本人体解剖学 上下巻 改訂20版 南山堂		
参考書			
学習評価	<p>筆記試験を100%とし、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に判定する。</p>		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	解剖学総論(序論)	講義
2	循環器系①	講義
3	循環器系②	講義
4	循環器系③	講義
5	循環器系④	講義
6	循環器系⑤	講義
7	循環器系⑥	講義
8	呼吸器系①	講義
9	呼吸器系②	講義
10	呼吸器系③	講義
11	消化器系①	講義
12	消化器系②	講義
13	消化器系③	講義
14	消化器系④	講義
15	泌尿器系①	講義
16	泌尿器系②	講義
17	生殖器系①	講義
18	生殖器系②	講義
19	内分泌系	講義
20	神経系①	講義
21	神経系②	講義
22	神経系③	講義
23	神経系④	講義
24	神経系⑤	講義
25	神経系⑥	講義
26	神経系⑦	講義
27	神経系⑧	講義
28	感覚器①	講義
29	感覚器②	講義
30	補足・まとめ	講義

講義要項

科目	運動機能解剖学	担当講師	大嶺 菜央・新井 大志
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・60時間
概要	理学療法評価・治療において、人体の正常な形態、構造、機能を理解する必要がある。運動機能解剖学では、解剖学の中の運動に関する骨・関節・筋・靭帯・神経の名称、位置、構造、作用等について学ぶ。さらに、解剖の理解に合わせて基本的な運動の中でどのように機能しているか学ぶ。		
目標	骨・関節・筋・神経の形態、構造を理解すると共に、体幹・上肢・下肢の骨・関節・筋・神経が運動の中でどのように機能しているかを学び、運動に関する解剖と機能が説明できる。 1. 運動を表現する用語が適切に使用できる。 2. 運動に関する組織の名称、位置、形態、構造、作用が説明できる。 3. 運動に関する組織の機能を説明できる。		
教科書	日本人体解剖学(上下巻) 南山堂 基礎運動学 医歯薬出版 筋骨格系のキネシオロジー 医歯薬出版 機能解剖学的触診術 メディカルビュー		
参考書	適宜配布		
学習評価	筆記試験を100%とし、60%以上で合格とする。 出席、受講態度、筆記試験等を加味し総合的に評価する。		
備考	予習・復習を必須とし、規定の予習・事前課題を行ってこないものは講義に参加する権利はない。 グループワークを主体とするため、ワーク内で発言をしないものは講義に参加する権利はない。		

講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション 総論Ⅰ:骨 関節	講義
2	総論Ⅰ:骨 関節	講義
3	総論Ⅱ:靭帯 筋 神経 血管	講義
4	総論Ⅱ:靭帯 筋 神経 血管	講義
5	総論 確認テスト まとめ	講義
6	動作・疾患提示 下肢 ・ 下肢 骨盤帯 機能解剖	講義
7	下肢 骨盤帯 機能解剖	講義
8	下肢 股 機能解剖	講義
9	下肢 股 機能解剖	講義
10	下肢 膝 機能解剖	講義
11	下肢 膝 機能解剖	講義
12	下肢 足 機能解剖	講義
13	下肢 足 機能解剖	講義
14	下肢 まとめ	講義
15	下肢 確認テスト まとめ	講義
16	動作・疾患提示 体幹 ・ 体幹 脊柱 機能解剖	講義
17	体幹 脊柱 機能解剖	講義
18	体幹 脊柱 胸郭 機能解剖	講義
19	体幹 胸郭 機能解剖	講義
20	体幹 頭 機能解剖	講義
21	体幹 確認テスト まとめ	講義
22	動作・疾患提示 上肢 ・ 上肢 肩 機能解剖	講義
23	上肢 肩 機能解剖	講義
24	上肢 肩 機能解剖	講義
25	上肢 肘 機能解剖	講義
26	上肢 肘 手 機能解剖	講義
27	上肢 手 機能解剖	講義
28	上肢 まとめ	講義
29	上肢 確認テスト まとめ	講義
30	まとめ	講義

講義要項

科目	体表解剖学	担当講師	新井 大志・大嶺 菜央・白石 和也 他
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・実習2単位・60時間
概要	人体に実際に触れて、骨・関節・靭帯・腱・筋・脈管系の位置関係を解剖学と比較、確認する。理学療法における視診・触診の目的を捉えたうえで実施できる。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法における視診・触診の目的を説明できる。 2. 触診の方法を習得し、不快感なく触ることができる。 3. 骨のランドマーク・関節を触診できる。 4. 筋の走行を説明し触診ができる。 5. 動静脈の走行を説明し・脈拍を触診できる。 6. 靭帯の走行を説明し、触診できる。 		
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢)改訂第2版 MADICALVIEW 運動療法のための機能解剖学的触診技術(下肢・体幹)改訂第2版 MADICALVIEW 日本人体解剖学(上下巻)改訂19版 南山堂 基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版 筋骨格系のキネシオロジー第3版 医歯薬出版		
参考書	適宜配布		
学習評価	筆記試験は100点を100%とし、実技試験は3課題から構成され、それぞれ100点の合計300点を100%とする。筆記試験ならびに実技試験、それぞれ60%以上を合格とする。成績評価は筆記試験と実技試験の平均点をを用いる。そのほか、出席・講義態度を加味して、総合的に評価する。		
備考	①服装:Tシャツ・ハーフパンツ・運動靴等動きやすく体表の観察・触診がしやすいもの。 ②身だしなみ:髪はまとめる、つめを切る、アクセサリーははずす、ヒールのある靴は不可。 ③教科書を持ってこないもの。 ④該当項目の解剖学ならびに触診方法(教科書・動画の確認)の予習をしてこないもの。 上記4点が守れない場合は、受講できません。予習は必須(始めに確認します)。 *チェックシートにて指定回数の練習を積んでいないものは形成的評価を受けることはできません。		

講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション	講義・実技
2	触診の基本(手順・触り方)	実技
3	ランドマーク・関節(下肢)	実技
4	ランドマーク・関節(下肢)	実技
5	筋・血管・靭帯(腰部・股)	実技
6	筋・血管・靭帯(腰部・股)	実技
7	筋・血管・靭帯(膝・足・足部)	実技
8	筋・血管・靭帯(膝・足・足部)	実技
9	筋・血管・靭帯(膝・足・足部)	実技
10	筋・血管・靭帯(膝・足・足部)	実技
11	まとめ・練習	実技
12	形成的評価	実技
13	形成的評価	実技
14	振り返り・練習 ランドマーク・関節(体幹)	実技
15	ランドマーク・関節(体幹)	実技
16	筋・血管・靭帯(頸部・胸部)	実技
17	筋・血管・靭帯(頸部・胸部)	実技
18	ランドマーク・関節(上肢)	実技
19	ランドマーク・関節(上肢)	実技
20	筋・血管・靭帯(上肢帯・肩)	実技
21	筋・血管・靭帯(上肢帯・肩)	実技
22	筋・血管・靭帯(肘・手・手部)	実技
23	筋・血管・靭帯(肘・手・手部)	実技
24	筋・血管・靭帯(肘・手・手部)	実技
25	筋・血管・靭帯(肘・手・手部)	実技
26	まとめ・練習	実技
27	形成的評価	実技
28	形成的評価	実技
29	振り返り・まとめ・練習	実技
30	振り返り・まとめ・練習	実技

講義要項

科目	医学概論	担当講師	中村・上野・清水・奥村・渡邊・高島・神山・加藤
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	医学の成り立ちや基本姿勢、医学対象となる健康・病気の概念や病気の成り立ちと基本的な診断・治療について学ぶ。		
目標	以下の項目について、医療人の立場で学び、理解する 1. 医学の成り立ち 2. 医療従事者の基本姿勢(生命倫理、医の倫理、人の尊厳等)について 3. 健康および病気についての概念 4. 病気の成り立ちと、基本的な診断・治療(リハビリテーションを含む) 5. 診療科の名称と内容、病期について 6. 医療安全、医療システムについて		
教科書			
参考書	必要な資料は適宜配布する。		
学習評価	筆記試験を100%とし、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に判定する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	医学の成り立ち(歴史、変遷)	講義
2	医療とは(現代における医療の範囲等)	講義
3	人の尊厳・生命倫理	講義
4	医の倫理・理学療法および作業療法倫理①	講義
5	医の倫理・理学療法および作業療法倫理②	講義
6	健康、疾病、障害	講義
7	病気の成り立ち(予防、発症、治療、回復過程)	講義
8	診療科の名称と内容	講義
9	基本的な診断と治療①	講義
10	基本的な診断と治療②	講義
11	最先端医療	講義
12	病気の治療とリハビリテーション	講義
13	病期ごとの特徴(急性期～終末期)	講義
14	医療安全	講義
15	医療の質/医療システム	講義

講義要項

科目	病理学	担当講師	渡邊 俊宏
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	病理学とは、病気を解明する学問である。 本講義では組織・細胞レベルで病気の本態を学習する。		
目標	1. 主な病気の定義を学ぶ。 2. 主な病気の成り立ちやを学ぶ。 3. 病理学的解釈で病気を理解する。		
教科書	なるほどなっとく！病理学 南山堂		
参考書			
学習評価	筆記試験を100%とし、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に判定する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	病理学について	講義
2	萎縮	講義
3	肥大	講義
4	変性	講義
5	化生	講義
6	壊死	講義
7	再生	講義
8	循環障害	講義
9	循環障害	講義
10	免疫	講義
11	免疫	講義
12	炎症	講義
13	炎症	講義
14	腫瘍	講義
15	腫瘍	講義

講義要項

科目	リハビリテーション概論	担当講師	大嶺 菜央・松崎 智幸・吉田 真奈美
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	リハビリテーションの基本理念を理解し、リハビリテーション医学の基礎を学ぶ。 チームアプローチの大切さを理解し、リハビリテーションに関わる専門職の役割・専門性・リハビリテーションの展開について学ぶ。 さらにリハビリテーションにおける対象疾患と障害について学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの基本理念・定義・関連法規について説明ができる 2. リハビリテーションの代表的な対象について説明できる 3. リハビリテーションの職域が説明できる 4. 疾病と障害構造について概要が説明できる 5. 対象者の障害受容や障害心理について説明ができる 6. チームアプローチの必要性を理解しリハビリテーション関連職種の名称と具体的な役割が説明できる 7. 病期別、疾患別にリハビリテーションの概要を説明できる 8. リスク管理について説明ができる 		
教科書	セラピストのための概説リハビリテーション 文光堂 リハビリテーションビジュアルブック 第2版 学研メディカル秀潤社		
参考書	理学療法ハンドブック 改訂第4版 全4巻セット 病気がみえるシリーズ メディックメディア 医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第4版 永井書店		
学習評価	筆記試験100%のうち、60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考	予習・復習を必須とし、規定の予習・事前課題を行ってこないものは講義に参加する権利はない。 グループワークを主体とするため、ワーク内で発言をしないものは講義に参加する権利はない。		

講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション・リハビリテーションの基本理念・対象疾患	講義
2	医学的・教育的・職業的・社会的・地域リハビリテーションについて	講義
3	関連法規(PTOT法・リスク管理と義務)	講義
4	生活の階層性	講義
5	疾病と障害構造(ICF)	講義
6	患者・障害者の心理・社会的側面	講義
7	疾患別リハビリテーションの考え方(障害モデル)	講義
8	病期別リハビリテーションの考え方1 病期別:急性期・回復期・生活期・終末期	講義
9	病期別リハビリテーションの考え方2 病期別:急性期・回復期・生活期・終末期	講義
10	代表的な参加制約と評価・アプローチ	講義
11	代表的な活動制限と評価・アプローチ	講義
12	代表的な心身機能構造障害と評価アプローチ	講義
13	リハビリテーション専門職の役割・チームアプローチ1	講義
14	リハビリテーション専門職の役割・チームアプローチ2	講義
15	まとめ	講義

講義要項

科目	ケアクラークシップ	担当講師	新井 大志・大嶺 菜央・渡邊 泰典・村辻 康平
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・実習2単位・60時間
概要	一人の介護職員につき、実際の介護業務に参加しながら、介護の方法、利用者さまとの接し方など介護の基本を体験する。その中で以下の3つの目標を達成できるよう学習する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護体験を通じて、介護する側・される側の気持ちを理解する。 2. 対象者の介護補助を見聞・体験する中でADL・IADLの課題点を説明できる。 3. 対象者のリハビリテーションを見学させていただき、生活状況とリハビリテーションの関係について考えることができる。 		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習要綱 2. その他事前配布資料 		
参考書			
学習評価	学習態度(学内学習・学外実習における学習態度・行動、基本的態度)、出欠席状況(遅刻・早退・欠席とそれともなう報連相)、および提出物について総合的に評価する。詳細は別紙および学生便覧に準ずる。		
備考	別紙については『令和2年度～ 先行体験実習・解剖見学実習の成績評価について』参照。		

講義内容:

回数	内容	学習法
1	【事前セミナー】 1. 学生として相応しい行動のシミュレーション 2. 介護される側の体験 3. 介護老人保健施設の基礎知識 4. 日常生活動作(ADL)の見方	演習・実習
2		
3		
4		
5	【実習1日目～5日目】 1. 社会人、医療人としての基本的態度 2. 介護の見聞と補助 3. 対象者との対人関係の形成 4. 対象者の生活状況の把握とリハビリテーションとの関係性を知る 1)ADLの見学 2)リハビリテーションの見学	実習
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25	【事後セミナー1日目～1. 5日目】 1. 実習での学習内容の振り返り 2. 生活障害と介護の結びつきについて	演習・実習
26		
27		
28		
29		
30		

講義要項

科目	理学療法概論 I	担当講師	新井 大志・大嶺 菜央
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	理学療法の歴史、定義、目的、役割、対象、倫理などについて学ぶ。 また、理学療法のプロセス、理学療法の評価・治療の概要、各病期における理学療法の目的や内容、系統別の疾患と理学療法の概要について学ぶ。この理学療法概論 I での学習は、理学療法概論 II での症例を基盤とした学習に繋がる。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法の歴史、定義、目的、役割、対象、倫理について説明できる。 2. 理学療法のプロセスおよびICF、問題解決モデルについて説明できる。 3. 各病期における理学療法の目的・内容について説明できる。 4. 理学療法の評価・治療の概要について説明できる。 5. 系統別の疾患と理学療法の概要について説明できる。 		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースで学ぶ理学療法臨床思考 第2版 ・セラピストの為に概説リハビリテーション ・理学療法ハンドブック全巻 ・病気がみえるシリーズ ・理学療法検査測定ガイド 		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎運動学 ・生理学テキスト ・筋骨格系のキネシオロジー ・生物総合資料 ・日本人体解剖学 		
学習評価	筆記試験を100%として60%以上を合格とする。 ただし、提出課題、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考	授業ごとの予習・復習を必須とし、規定の予習・事前課題を行ってこないものは講義に参加する権利はない。 グループワークを主体とするため、ワーク内で発言をしないものは講義に参加する権利はない。 実技を行う際に身だしなみが不適切なものは、講義に参加する権利はない。		

講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション 教育理念・目標、卒業時・各学年における目標、教育課程、3年間の学習の流れ、科目の繋がり、社会人基礎力	講義
2	教育理念・目標、卒業時・各学年における目標、教育課程、3年間の学習の流れ、科目の繋がり、社会人基礎力	講義
3	理学療法の歴史、定義、目的、役割、対象、倫理	講義
4	理学療法プロセス、理学療法の評価・治療の概要、ICF、問題解決モデル	講義
5	理学療法プロセス、理学療法の評価・治療の概要、ICF、問題解決モデル	講義
6	理学療法プロセス、理学療法の評価・治療の概要、ICF、問題解決モデル	講義
7	理学療法プロセス、理学療法の評価・治療の概要、ICF、問題解決モデル	講義
8	理学療法プロセス、理学療法の評価・治療の概要、ICF、問題解決モデル	講義
9	理学療法プロセス、理学療法の評価・治療の概要、ICF、問題解決モデル	講義
10	理学療法プロセス、理学療法の評価・治療の概要、ICF、問題解決モデル	講義
11	各病期における理学療法の目的・内容	講義
12	系統別の疾患と系統別理学療法の概要（神経障害理学療法）	講義
13	系統別の疾患と系統別理学療法の概要（内部障害理学療法）	講義
14	系統別の疾患と系統別理学療法の概要（骨関節障害理学療法）	講義
15	まとめ	講義

